

平成24年度 家庭と学校協働フォーラムの概要

日 時：平成25年1月17日（木）14時～

場 所：田原本青垣生涯学習センター弥生の里ホール

○奈良市立飛鳥小学校の実践報告

「子どもの規範意識や社会性の向上を目指して・・・」

- ・ 4つの重点項目（あいさつ、右側歩行、チャイムを守る、スリッパをそろえる）の設定
- ・ 地域との連携による「飛鳥フェスティバル」の開催
- ・ N I E（新聞を教育に生かす）取組

○斑鳩町立斑鳩小学校の実践報告

「子どもの体力向上を目指して・・・」

- ・ 保護者や地域の人たちと協働した外遊びの取組
- ・ そうきんがけ選手権、親子でそうじの実施
- ・ 外遊びチャレンジ運動の取組



○大淀町立大淀希望ヶ丘小学校

「子どもの学力向上を目指して・・・」

- ・ 読書タイムやスピーチタイムの時間の設定
- ・ 地域の方による図書ワーキンググループの取組
- ・ 通学合宿の実施

☆協議では、実行委員会の委員として取り組まれた地域の方からの発言も多くいただきました。家庭・地域と学校とが協働するためのより効果的な方策や有効な協働の在り方について協議を行い、学校を核とした地域との連携・協働や地域と共にある学校づくりを進めることの大切さが明らかになりました。



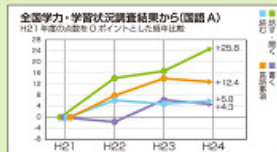
☆奈良教育大学の河崎智恵先生からは、3年間のプロジェクトのまとめとして、「家庭・地域の力で広げる学校教育の可能性」と題して、各モデル校それぞれの実態に応じて、学校、家庭・地域の関係者による実行委員会を設け、子どもの課題 解決に向けた取組を協働して具体化し、実施・検証してきた効果や今後の取組の方向性などについて御講演いただきました。

大淀町立大淀希望ヶ丘小学校

子どもの学力向上を目指して…

▼言語活動の充実に取り組みました。

希望タイムとして、朝の10分に「読書タイム」と「スピーチタイム」を設け、ことばのインプットとアウトプット体験を増やしました。毎月の生活目標に向けてのクラスがんばり度を、全校児童の前で報告するふりかえり集会を設定し、発表機会を増やしました。



▼授業の改善に取り組みました。

言語活動の活性化をテーマに授業研究に取り組み、言語活動の充実を図った授業づくりに努めました。



▼図書ワーキンググループの協力により、読書活動を推進しました。

毎週木曜日、図書ワーキンググループが図書室に在室し、本の紹介やおはなし会、小物作りを実施するなど、積極的に児童と交流し、児童が本に親しむ機会を増やしました。



▼4つの提言を推進するため、家庭での協力を呼びかけました。

「ことば」を介して親子の絆を深め、生活体験を充実させるための4つの提言の呼びかけを、平成22年度から3年間続けました。8割を超える家庭が、提言に関わる取組を工夫しながら実行しています。

【保護者より】

瀬船に入って、今日あったことやテストでがんばったことなどを、子どもが笑顔で話してくれます。こんなお風呂タイムは、私が一番好きな時間になっています。今日も、ゆっくり、子どもの話を聞きながら楽しくお風呂に入ろうと思います。

【保護者より】

最近、人と人のつながりが薄くなってきていると感じるので、思いや考えを相手に優しくきちんと伝えることができ、友達との心のつながりを大切に育てる子どもに育ってほしいと思います。まずは、私が「わが子への口調を優しく！」を心掛けないと。



4つの提言

▼通学合宿などの取組をととして、学校・家庭・地域の連携を深めました。

プロジェクト実行委員会が実施主体となり、平成23・24年度に、「希望ヶ丘通学合宿」を実施しました。また、PTA主催の「希望ヶ丘フェスタ」も好評で、児童と地域の人たちとの対話が増えたと感じる家庭が18ポイント増加しました。



希望ヶ丘フェスタ

得られた成果

- ◆家庭・地域の人たちとのつながりが強くなり、学校に対する理解と協力が得られやすくなりました。
- ◆ワーキンググループなど地域人材の協力で、学校図書館の活用が促進されました。
- ◆職員の学校教育目標の共有化と授業改善への取組が充実し、児童の学力向上につながりました。

家庭・地域と協働して
子どもの豊かな学びを創造するために

見直そう! 家庭と学校協働プロジェクト 3年間の歩みから

奈良県教育委員会では、平成22年度から学校・家庭・地域が協働して子どもの課題解決に取り組むために、「見直そう! 家庭と学校協働プロジェクト」を推進してまいりました。モデル校である県内の5つの小学校では、学校・家庭・地域が手を取り合い、体力向上や読書活動の推進、規範意識の向上のためのユニークなプロジェクトを企画し、まさにモデルとなる実践が積み重ねられました。そして3年目を迎えた今、子どもたちは地域の関係性の中で大きく成長し、豊かな成果を得ることができました。その成果の陰に、保護者の皆様や地域の方々の大変な御協力をいただきましたことを、改めて御礼申し上げます。

本プロジェクトの意義は、今後の教育の要となるであろう、学校・家庭・地域の連携の在り方を探り、様々な「きっかけ」の種まきができたことではないでしょうか。取組をきっかけとして、子どもたちが家庭・地域の豊かな人間関係に気づき、大人の役割、協働する姿を目の当たりにできたことは、今後の成長に大きな意味をもつことと思われまます。

平成18年に改正された教育基本法では、「学校・家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を努めるものとする」とされ、学校・家庭・地域の役割と責任が強調されました。本プロジェクトを通してまかれた「きっかけ」の種が、今後、より多くの場所で花を咲かせることを期待するとともに、多くのつながりの中で子どもたちが豊かに成長することを願っています。

奈良教育大学准教授 河嶋 智恵(協働プロジェクト奈良県推進協議会会長)

「愛を基盤として、知力・体力・忍耐力を身に付け、
正々堂々と生きる子どもを育てる」ために…

生活習慣 規範意識 社会性 学力 体力

家庭・地域社会

- ◆決まった時刻での就寝・起床
- ◆家族の一員として責任をもった手伝い
- ◆ノートレビ・ノーゲームデーなどの実施
- ◆地域活動への参加

実行委員会

- 教職員、保護者、学校評議員、地域ボランティア、教育委員会担当指導主事などにより構成
- 家庭・地域と学校とが協働した取組の検討と実施

学校

- ◆読書活動の推進
- ◆外遊び、みんなでチャレンジ!の実施
- ◆体験活動の充実
- ◆10分間程度の短い時間などを活用した繰り返し指導の実施
- ◆家族や地域への啓発

実行委員会の設置

モデル校では、これまで学校からの啓発中心であった家庭・地域への働きかけをさらに進め、学校と家庭・地域が協働して子どもを育てる体制づくりのために、実行委員会を設置しています。

※実行委員会メンバー構成(モデル校の例)

委員の職名等		
小学校長	PTA会長	学校評議員
教 頭	PTA副会長	地区連合自治会長
教務主任	PTA各役員	青少年健全育成協議会会長
教育委員会指導主事	交通安全母の会役員	民生児童委員

奈良県教育委員会事務局学校教育課

http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-11935.htm

家庭・地域と協働して 子どもの豊かな学びを創造するために

「見直そう！家庭と学校協働プロジェクト」では、子どもたちの課題の解決に向け、学校・家庭・地域が協働して取り組む上で、そのプロセスを、
①課題の明確化、②課題の共有、③方策の具体化、④効果の検証として、各プロセスにおける中心的な協議を実行委員会で行ってきました。

① 課題を明確にするために

- ア 教員アンケートの実施や、PTA役員、学校評議員等への意見聴取をする。
- イ 実行委員会で「知・徳・体」等の観点から育てたい子どもの姿を明らかにする。
- ウ 優先的に取り組むべき課題を焦点化し、その課題について、学校・家庭・地域の出組の重点を明確にする。
(モデル校の例)
課題：子どもの基本的な生活習慣の定着を図る
- 学校の重点……授業における学習習慣・学習規律の定着
 - 家庭の重点……子どもの身辺自立とともに家庭でのコミュニケーションの促進
 - 地域の重点……学校の教育活動への協力促進

知

体

徳

② 課題を共有するために

- ア 明確にした課題と併せ、学校・家庭・地域の出組の重点を発信する。
・学校通信やPTA通信の発行、PTA総会等での校長からの説明
・自治会の掲示板や回覧板の活用
- イ 取り組むべき課題を、子どもに関わる全ての大人が共有する。
- ウ 地域全体で子どもを育てる機運の醸成を図る。

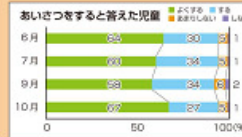
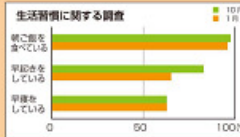
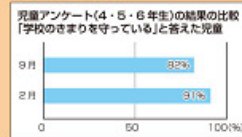


実行委員会

④ 効果を検証するために

- ア できるだけ具体的に数値化できる評価項目や評価指標を設定する。
・全国学力・学習状況調査などの全国的な調査結果の積極的な活用
・学校独自のアンケート調査の実施
- イ さらに課題を明らかにするとともに、改善策を検討する。
- ウ 優先的に取り組むべき課題を焦点化する。

(モデル校の例)



③ 課題解決のための方策を具体化するために

- ア 学校で行う取組や家庭で行う取組、地域に協力を求める取組などを効果的に組み合わせる。
・学校での学習活動を家庭でのコミュニケーションに生かす
・家庭・地域の人の協力による活動により、学習意欲を高める
・地域での活動を振り返り、その体験を授業に生かす
- イ 実行委員会で協議し、課題解決に向けた方策を具体化する。
- ウ 家庭や地域社会に周知し、積極的に推進・協力を求める。
(モデル校の例)



- ・社会性の向上を目指した「地域フェスティバル」の開催 …………… 奈良市立飛鳥小学校
- ・規範意識の向上を目指した「あいさつ運動」の取組 …………… 宇陀市立榎原西小学校
- ・体力の向上を目指した「外遊びチャレンジ」の取組 …………… 斑鳩町立斑鳩小学校
- ・生活習慣の向上を目指した「ノーテレビ・家読(うちどく)」の取組 …… 広陵町立広陵東小学校
- ・学力の向上を目指した「言語活動の活性化」の取組 …………… 大淀町立大淀希望ヶ丘小学校

実行委員会の広がり求めて



学校支援地域本部、 通学合宿等の取組の実施主体として

家庭や地域への協力を求める取組や、地域等が実施主体となる取組等の実施に向け、実行委員会組織を積極的に活用する。

学校関係者評価実施のための 評価委員会の母体として

自己評価の客観性を担保できる学校関係者評価にすため、実行委員会組織の実情に応じて、さらに必要な委員(学識経験者等)を加えて評価委員会を組織する。

学校を中心とした地域コミュニティ 活性化の発信基地として

放課後等の空き教室を活用したサークル活動、学校のニーズに応じたボランティア活動など、学校を中心とした地域住民の活動の場づくりを地域に発信し、地域コミュニティの活性化を図る。



奈良市立飛鳥小学校

子どもの規範意識や社会性の向上を目指して…

▼子どもの規範意識の向上を目指して次の取組を行いました。

4つの重点項目(あいさつ、右側歩行、チャイムを守る、靴・スリッパの整頓)の達成に努めました。



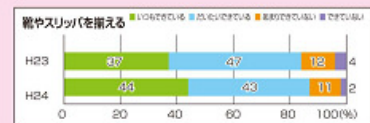
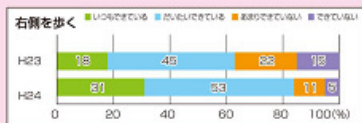
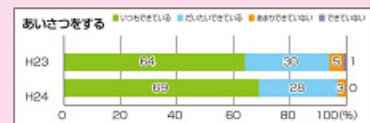
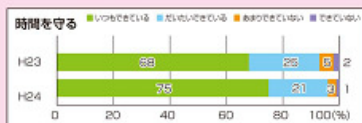
児童会の取組として、あいさつキャラクターを募集しました。

4つの重点項目達成に向け、標語・キャラクターを活用しました。



キャラクターや標語を毎月育友会便りに掲載しています。

わが子の未来 親の意識と参加から



▼子どもの社会性の向上を目指して次の取組を行いました。

地域と連携した取組として、「あすかフェスティバル」を開催しました。



秋に開催した「あすかフェスティバル」には、地域の方や保護者と共に参加しました。

NIE(新聞を教育に生かす)の取組を進めました。



新聞やテレビのニュースに興味をもつ児童が増えました。

得られた成果

- ◆4つの重点項目については、定期的にアンケートを実施し、結果を知らせることで、児童会のあいさつ運動・右側歩行運動へと取組が広がり、学校全体に定着しました。
- ◆保護者だけでなく、地域へも学校行事への参加を呼びかけることで、地域の人たちが、子どもに声をかけてくださるなど、子どもを温かく見守ってもらえるようになりました。

宇陀市立榛原西小学校

子どもの規範意識や生活習慣の向上を目指して…

▼「あいさつ運動」を地域と協働して推進するとともに、道徳の時間に礼儀の大切さについて考えを深めました。



▼きまりを守ることや信頼・友情などを考える道徳の時間の充実に向け、学校全体で授業研究に取り組みました。



▼家庭と協働して「親子ポスター・標語づくり」や「ノーテレビ・ノーゲームデー」に取り組みました。

項目	対象	前期	後期
地域の行事に参加している	児童	85.1%	92.8%
子どもは地域の行事に参加している	保護者	89.9%	97.8%

親子で考えたあいさつ運動のキャッチフレーズを機にして、校区に設置しました。



得られた成果

- ◆「あいさつ運動」「親子ポスター・標語づくり」「ノーテレビ・ノーゲームデー」等の取組をとおして、児童と保護者・地域の人たちとのつながりが深まりました。

〈連合自治会長さんより〉

以前は、こちらからあいさつをしても、してくれないこともありましたが、最近子どもさんから進んであいさつをしてくれます。

〈保護者より〉

- ・ゲームのスイッチを入らず、外で元気に遊んでいました。
- ・進んで、宿題を計画的にがんばっていました。
- ・本をたくさん読んでいました。
- ・野球の練習や宿題など、目標をもってがんばっていました。

- ◆道徳の時間をとおして、きまりを守ったり、あいさつや礼儀の大切さを考えたりしてきた成果が、児童の姿にあらわれてきました。

〈授業研究会の指導より〉

授業におけるあいさつ、発言の声の大きさ、椅子に座る姿勢、話を聞く姿勢、挙手等の学習習慣や学習規律を学校全体で大切に指導されてきたことの成果が、各学年の授業にあらわれていました。また、授業だけでなく、子どもたちの学校生活における落ち着きにつながっています。

- ◆実行委員会で学校、家庭、地域の役割について話し合い、「親子ポスター・標語づくり」や「ノーテレビ・ノーゲームデー」などの取組を行うことをとおして、地域の行事に参加する児童が増えました。

斑鳩町立斑鳩小学校

子どもの体力向上を目指して…

▼家庭と協働して、外遊びの取組を推進しました。

保護者や地域の人たちにサポーターとして協力いただき、なわ回しやタイムの測定などを行っていただいたことで、子どもの活動意欲が向上するとともに、体力向上につながりました。



▼保護者や地域の人たちと児童とのふれあいを深める取組を推進しました。

サポーターの人たちとのあいさつや、記録カードにシールを貼ってもらうなどの交流を大切にしました。



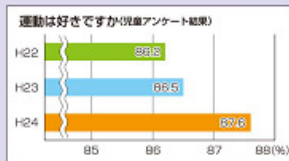
▼「ぞうきんがけ選手権」、「親子でそうじ」に取り組みました。

腕・足・腰などを鍛えることで体力向上を目指しました。同時に、活動を楽しみながら団結する心も育っています。「ぞうきんがけ」を家庭でも推奨するほか、保護者と共に学校の清掃活動を行う「親子でそうじ」の取組も実施しました。

クラス全員が一枚の長いぞうきんで床ふきをします。



	男子			女子		
	H22	H23	H24	H22	H23	H24
反復横跳び(回)	43.36	43.77	47.12	37.57	40.53	45.63
50m走(秒)	9.12	9.19	9.03	9.67	9.43	9.38
シャトルラン(回)	57.78	74.74	68.45	41.87	53.71	55.92
立ち幅跳び(cm)	161.49	162.52	160.97	149.87	141.51	151.66



得られた成果

- ◆保護者・地域の人たちと協働することで、児童の活動意欲が高まり、体力が向上しつつあります。
- ◆体を動かす機会を意図的に設定することで、運動好きな児童が増えました。

〈子どもたちの感想〉

- ・何回も挑戦し、記録を伸ばすために友達と頑張って練習しました。
- ・目標をもってあきらめずにがんばりました。
- ・励ましの言葉をもらって、「がんばろう」と思いました。

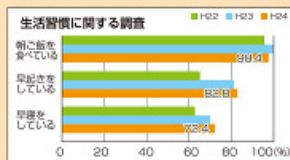
〈サポーターの感想〉

- ・いつも子どもたちからパワーをいただいています。
- ・できたときの喜び、子どもたちの秘めた力を感じます。
- ・とても気持ちのいいあいさつができていました。
- ・回数を競い合ったり、励まし合ったりしている子どもたちは素晴らしいです。

広陵町立広陵東小学校

子どもの生活習慣や学習習慣の向上を目指して…

▼毎月の生活点検やノーテレビデーの取組を進めました。



生活習慣が改善してきています。

★朝ご飯の大切さを家庭に啓発するため、プロの調理師や管理栄養士さんを招き、朝食の大切さについてのお話や簡単な朝食レシピを紹介していただきました。



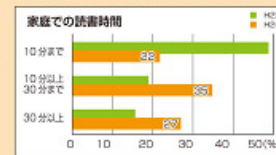
ノーテレビに取り組み子どもが増えています。

▼家読(毎月10日)の取組を推進しました。

子どもたちは保護者と一緒に、生き生きと読書活動に取り組んでいます。



学年ごとに選んだ親子読書用の本を専用袋に入れてリレーします。



家庭で読書する子どもが増えました。

子どもたちの読書意欲を高めるために、「家読 子ども川柳」を募集するほか、保護者と協働して創作劇(家読レンジャー)にも取り組みました。

〈子どもたちの声〉

- ・テレビをつけたらなんだかうるさくて、本が読めません。テレビをけすとなんだかおちつくような感じがします。
- ・一人で読みました。すらすら読めてうれしかったです。うちの人が静かに聞いてくれたのがとてもうれしかったです。

家読 子ども川柳 家読10 親子の絆 深まる日 一冊で心の栄養 満たされる

得られた成果

- ◆親子読書リレーでは、親子の会話が増え、ふれあいが深まりました。

〈保護者より〉

「子どもと一緒に本を読んで感想を話し合えたので、子どもの気持ちやどんなことを考えて読んでいるのかが分かってよかったです。」

- ◆毎月10日のノーテレビデーには、家族ぐるみで積極的に協力していただいています。

〈保護者より〉

「テレビを見る時間がかなり減って、食事中でも会話をしながら早く食べられるようになりました。」



- ◆朝食摂取の状況や起床時刻(7時まで)、就寝時刻(低学年は9時、高学年は10時まで)が改善しました。